様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　7 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５２０１５４
研究課題名（和文）近代日本における「移動文学」のジェンダー分析

研究課題名（英文）　Gender Analysis of "*littérature migrante*" in Modern Japan

研究代表者
平田　由美（HIRATA　YUMI）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：６０１５３３２６

研究成果の概要（和文）：
本研究では「引揚げ／復員」と「残留」というテーマに焦点を当てて、それを物語や事件として語るテクストを（語り得なかった物語をも含めて）分析した。多く女性の書き手によって語られる「引揚げの物語」と、男性が語る「復員の物語」は協力して、戦争で破壊された家族の再建と国家国土の復興という大きな物語を生んだ。引揚げ文学において、戦争に先立つ植民地進出と植民地からの収奪が不問に付された。引揚げと残留とがともに戦争によって引き起された移動の結果であるとするならば、引揚げ物語と在日の物語とを、同時に、戦争による移動の文学という表裏一体のもの、「移動の文学」の一部として読むことが必須であろう。

研究成果の概要（英文）：
In this joint research, we focused on the themes of repatriation and those who were "left behind," and attempted to analyze texts that tell these themes as narratives or events (including texts which were unable to tell them). Such tales were chiefly written by women, and together with tales of soldiers about demobilization (f*ukuin*), they gave birth to a broad ranging literature which thematized the reunion of family members together with the reconstruction of the nation. The literature of returnees passes over in silence the movement into Asia of colonial settlers in the pre-war period and the material gains that accrued to them there. If we consider those who were repatriated and those who were left behind　both　as products of the movement provoked by war,　it will be necessary for us to examine, side by side with tales of repatriation, the tales of Korean Japanese (*zainichi*)-- treating this all as part of one large "literature of movement" spawned by war.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：日本文学・日本文学
キーワード：移動文学、ジェンダー、引揚げ／復員、コロニアリズムと言語、ポストコロニアル文学

１．研究開始当初の背景

グローバリゼーションの進展に伴って、人々の移動が引き起こす政治的経済的社会的な変動とともに、文化的な動揺や変容が問題化されるようになった。とりわけ 20 世紀の末葉以降、「移動」は文学研究や批評言説においても重要なテーマとなった。日本文学の分野でも移動をめぐる研究は、長きにわたる「一国文学」的枠組の制約による戦時期の一時的逸脱という例外的取扱いの傾向を打破し、全集やアンソロジーの編纂など研究基盤の構築とともに、理論的分析が行われるようになってきた。

２．研究の目的

移動を共同体やエスニシティ集団の移住など「人口移動」として把握する社会科学的研究では、移動の「主体」は計量可能な「マス」として対象化される。本研究は個人によるそれぞれの移動を一回性の出来事として描く文学作品を中心的な対象として、「移動」の個別性や細部にこだわりながらテクストを読み解くことによって、その意味と文学的可能性を考察し、グローバルな文脈の中に位置づけることを目的とする。

３．研究の方法

(1)分析対象への歴史的時間軸の挿入･･･移動をめぐる従来の研究において分離しがちであった人文学研究と社会科学研究の両領域をまたぐべく、分析方法に歴史的時間軸を導入することによって、歴史研究における戦前（戦中）と戦後の分断を繋ぎ、グローバリゼーション研究に随伴する「現在」という時間への限定性を解消する。

(2)分析手法へのジェンダー研究の導入･･･移民（史）研究においては、女性の移動は家計補助や家族呼寄せの結果として論じられる傾向が強かったが、文学テクストの中には家父長制的家族制度の抑圧や男性中心社会からの脱出としての移動や「自己実現」を求める移動が描き出されている。これら「移動の主体」としての女性に留意しつつジェンダー研究の視座からのテクスト分析を行う。

４．研究成果

(1)研究代表者および研究分担者に加えて、人文･社会科学の両領域に亘る研究者の協力を国内外から得て、当初のもくろみであった「移動」をめぐるテクストのグローバルな文脈への位置づけ作業を行った。その結果として、「植民・戦争・引揚げ」が重要なテーマであることを確認し、この観点からのテクストの分析を進展させた。

(2)研究成果の一部を国内外のシンポジウム、学会において発表した。具体的な成果は下記の通りであるが、なかでも ICAS6 において、本プロジェクトの共同研究者によるパネルを構成することができた意義は大きく、その発展的研究として、新たな科学研究費補助金研究のスタートが可能になった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

①西川祐子、井久保伊登子『女性史の中の永瀬清子』をよみながら、岡山地方史研究、119 号、2009、pp.1-10、査読無

②西川祐子、ニュータウンの記憶のゆくえ、

日本都市社会学会年報、27 号、2009、pp.21-36、査読無

③平田由美、여성의改鑄근대일본의'女伝'이라는 언설[女性の改鋳―近代日本における'女伝'という言説]、大東文化研究、65 号、2009、pp.111-150、査読無

④玉井暲，米井力也，平田由美，石割隆喜，三宅祥雄 「座談会：横断する文学としての文学環境論―その可能性をめぐって」，待兼山論叢、42 号、 2008、 pp.71-114、査読無

⑤西川祐子、鶴見和子文庫のこと－言葉をリレーする、環、28 号、2007、pp.208-217、査読無

⑥平田由美、文学言語としての「話法」：近代日本文学における表現史と研究史、表現研究、86 号、2007、pp.9-19、査読無

〔学会発表〕（計１０件）

①西川祐子、有島武郎と家庭イデオロギー、有島武郎研究会主催シンポジウム・1920 年代の〈家庭生活〉：有島武郎・森本厚吉・吉野作造、2009 年 6 月 6 日、北海道大学（札幌）

②平田由美「引揚げ」物語をめぐるジェンダーと言語、国際学術シンポジウム・越境と言語：（脱）植民主義と「国語」の移動、2010 年 1 月 27 日、韓国東国大学校文化学術院日本学研究所（ソウル）

③ NISHIKAWA Yuko, In Search of Fragments of Repatriation Novels Never Written: Reading The Diaries of Yagi Akiko, International Convention of Asian Scholars 6, 2009/08/07, Daejeon Convention center（Daejeon）

④HIRATA Yumi, Repatriation / Repatriarchalization: Literary discourse in postwar Japan, International Convention of Asian Scholars 6, 2009/08/07, Daejeon Convention center（Daejeon）

⑤平田由美、Repatriation / Repatriarchalization：後藤明生における「移動」の言語、シンポジウム・”移動“の文学表象とジェンダー－植民、戦争、引揚げ、2009 年 7 月 18 日、大阪大学（大阪）

⑥西川祐子、追放と再追放－八木秋子日記を読む、シンポジウム・”移動“の文学表象とジェンダー－植民、戦争、引揚げ、2009 年 7 月 18 日、大阪大学（大阪）

⑦西川祐子、近代家族の空間：男の家・女の家・性別のない部屋、女性学研究センター連続講演会、2008 年 6 月 14 日、大阪府立大学（大阪）

⑧平田由美、女性の改鋳：近代日本における'女伝'という言説、国際シンポジウム・知の近代企画:メディアの東アジア、2007 年 12 月 14 日、成均館大学東アジア学術院（ソウル）

⑨ HIRATA Yumi, On the study of "Literature of Movement" as a theme for Globalization studies, *Language and the Literature of Migration*, 2007/10/22, Cornell University（Ithaca）

⑩ HIRATA Yumi, On the Study of “Literature of Movement” as a Theme for Globalization Studies, *Northeast Asia: Re-imaging the future*, 2007/07/05, Australian National University（Canberra）

〔図書〕（計５件）

①西川祐子、住まいから見る日本型近代家族論（井上眞理子編『家族社会学を学ぶ人のために』II 第 1 章：）、世界思想社、2010、pp.30-50

②西川祐子、他者性からの回復－S.ボーヴォワール『第二の性』」（井上俊・伊藤公雄編『近代家族とジェンダー』）、世界思想社、

2010、pp.75-84
③西川祐子、日記をつづるということ：国民教育装置とその逸脱、吉川弘文館、2009、10+306+29ps
④平田由美、여성표현의 일본 근대사：<여류작가> 의탄생전야 [女性表現の日本近代史：＜女流作家＞の誕生以前] Somyong Publishing, 2008, 280ps
⑤西川祐子、日本型近代家族の変遷？－比較史の可能性と問題点（棚沢直子・中嶋公子編『フランスから見る日本ジェンダー史』第Ⅰ部第４章）、新曜社、2007、pp.65-81

６．研究組織

(1)研究代表者

平田　由美（HIRATA YUMI）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：６０１５３３２６

(2)研究分担者

西川　祐子（NISHIKAWA　YUKO）
京都文教大学・人間学研究所・研究員
研究者番号：５０１８３５３８